

特別企画：出版関連業者の経営実態調査

書店は増収、出版・取次は減収で明暗

～大手書店は電子書籍、ネット販売が押し上げ～

はじめに

出版不況が続いている。今年は3月に出版取次中堅の太洋社が自己破産したことに始まり、以降は専門誌を扱う中小出版社の倒産が続いた。書店についても11月25日に「岩波ブックセンター」を経営する信山社が東京地裁より破産手続き開始決定を受けた。雑誌販売はとくに低迷しており、『Anecan』が11月7日発売をもって休刊となるなど苦境が際立つ。一方で、文芸書でヒット作が続くなか、書籍以外の販売やサービスと組み合わせられた複合書店もしばしば見かけるようになっている。

帝国データバンクは、企業概要ファイル「COSMOS2」（約146万社収録）から、2005年度、2013年度、2014年度、2015年度において、年売上高1億円以上の出版関連業者（※）を抽出。売上動向や損益状況について分析した。前回調査は2015年7月。

◇「出版関連業者」とは「出版社」、「出版取次」、「書店経営」の3業態とした。「出版社」については新聞社を除き、「書店経営」は店頭販売を行う書店のほかに、中古書店やネット販売も扱う業者を含めている。本文中の「出版取次」は「出版取次業者」を、「書店経営」は「書店経営業者」を表す

◇調査対象は2005年度：3670社、2013年度＝2672社、2014年度：2616社、2015年度：2528社（重複あり）

調査結果(要旨)

1. 2015年度の出版関連業者の総売上高は、約4兆8867億4400万円（2528社）となり、2014年度の約5兆672億8700万円から3.6%（1805億4300万円）減少。「出版社」と「出版取次」の売上高が減少するなか、「書店経営」は4.8%増加していることが判明した
2. 2016年11月時点で2014年度と2015年度決算の数値が判明している2519社の総売上高を見ると、「書店経営」では売上規模が大きい企業が増収となり、「出版」「出版取次」では反対に減収となった
3. 2014年度と2015年度で当期純損益が比較可能な1091社を見ると、1年間で577社（52.9%）が増益、485社（44.5%）が減益、29社（2.7%）が横ばい。過半数の企業が増益であることが判明した

1. 総売上高動向 ～1年間で約1805億4300万円減少～

2015年度の出版関連業者の総売上高は4兆8867億4400万円となり、2014年度(5兆672億8700万円)比で1805億4300万円(3.6%)減少した。

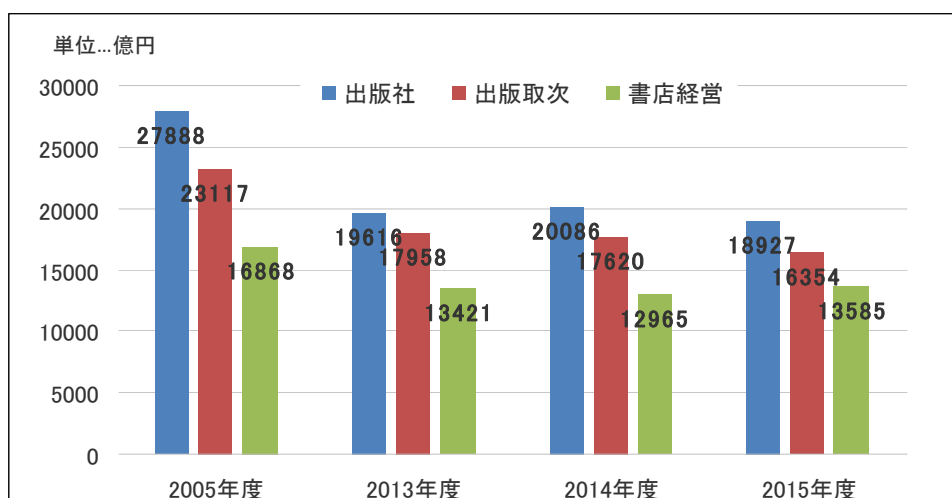
業態別の内訳は、「出版社」が1兆8927億6300万円(前年度比5.8%減)、「出版取次」が1兆6354億900万円(同7.2%減)、「書店経営」が1兆3585億7200万円(同4.8%増)となり、書店経営業者のみ前年度比増加となった。

また、2015年度を10年前の2005年度と比較すると、総売上高は1兆9007億3800万円減少(28.0%減)。業態別の内訳は、「出版社」が8961億1100万円減少(32.1%減)、「出版取次」が6763億1600万円減少(29.3%減)、「書店経営」が3283億1100万円減少(19.5%減)となり、「出版社」と「出版取次」の縮小が顕著となっている。

出版関連業者の総売上高推移

(単位:百万円)

	2005年度	2013年度	2014年度	2015年度	05→15年度 増減	13→14年度 増減	14→15年度 増減
出版社	2,788,874 (1679社)	1,961,695 (1285社)	2,008,679 (1245社)	1,892,763 (1194社)	▲ 896,111 ▲32.1%	46,984 2.4%	▲ 115,916 ▲5.8%
出版取次	2,311,725 (583社)	1,795,868 (532社)	1,762,044 (532社)	1,635,409 (535社)	▲ 676,316 ▲29.3%	▲ 33,824 ▲1.9%	▲ 126,635 ▲7.2%
書店経営	1,686,883 (1408社)	1,342,172 (855社)	1,296,564 (839社)	1,358,572 (799社)	▲ 328,311 ▲19.5%	▲ 45,608 ▲3.4%	62,008 4.8%
合計	6,787,482 (3670社)	5,099,735 (2672社)	5,067,287 (2616社)	4,886,744 (2528社)	▲ 1,900,738 ▲28.0%	▲ 32,448 ▲0.6%	▲ 180,543 ▲3.6%



2. 規模別総売上動向 ～書店経営、上位規模が全体を押し上げ

総売上高の規模別分布(2519社)

(単位:百万円)

出版社

規模	2014年度総売上高	2015年度総売上高	増減額	社数
500億～1000億円以上	466,515	445,389	▲ 21,126	4
100億～500億円未満	449,010	461,177	12,167	29
50億～100億円未満	241,936	245,212	3,276	34
10億～50億円未満	447,752	449,517	1,765	201
1億～10億円未満	298,566	290,771	▲ 7,795	923
合計	1,903,779	1,892,066	▲ 11,713	1,191

出版取次

規模	2014年度総売上高	2015年度総売上高	増減額	社数
500億～1000億円以上	1,019,228	987,371	▲ 31,857	2
100億～500億円未満	251,110	239,068	▲ 12,042	10
50億～100億円未満	99,985	98,978	▲ 1,007	14
10億～50億円未満	165,277	176,457	11,180	83
1億～10億円未満	131,277	133,535	2,258	426
合計	1,666,877	1,635,409	▲ 31,468	535

書店経営

規模	2014年度総売上	2015年度総売上	増減額	社数
500億～1000億円以上	289,786	357,729	67,943	5
100億～500億円未満	364,478	371,068	6,590	19
50億～100億円未満	225,973	218,930	▲ 7,043	30
10億～50億円未満	223,958	213,653	▲ 10,305	106
1億～10億円未満	189,646	186,444	▲ 3,202	633
合計	1,293,841	1,347,824	53,983	793

2016年11月時点で2014年度と2015年度決算の数値が判明している企業2519社の総売上高を業態に分けて規模別に見ると、売上規模が大きい企業と小さい企業で売上動向に特徴がある。「出版社」と「出版取次」は規模が大きい企業の総売上高が減少した。「出版社」の最大手4社（集英社、講談社、KADOKAWA、小学館）や、「出版取次」の大手2社（日本出版販売、トーハン）の減収となった背景には雑誌や書籍の売上高の落ち込みがある。これに対して、「書店経営」は規模の大きい企業ほど売上高が増加していることが判明。大規模な「書店経営」業者は一定の収益を見込める堅調な本業部門を持つだけでなく、書店へのカフェ併設や電子書籍とリアル書籍の連携、中古本や書籍以外の物品の扱いやポイントカードサービス、インターネットサービスなど、様々な試みを実施されていることが、売上高の全体的な底上げにつながっているものと見られる。

3. 損益動向 ～過半数の企業が増益～

2014年度と2015年度で当期純損益が比較可能な1091社を見ると、577社（52.9%）が増益、485社（44.5%）が減益、29社（2.7%）が横ばいとなった。

増益企業と減益企業の合計はほぼ半々という結果だが、売上高別に見ていくと、規模が大きい企業ほど増益の占める割合が大きい。これに対して売上高規模が小さくなるほど減益の占める割合が増えている。

出版関連業者の損益動向

（単位：社）

売上高	損益	出版社	出版取次	書店経営	合計
500億～1000億円以上	増益	2 (50.0%)	2 (100.0%)	3 (60.0%)	7 (63.6%)
	減益	2 (50.0%)	0	2 (40.0%)	4 (36.4%)
	横ばい	0	0	0	0
	合計	4	2	5	11
100億～500億円未満	増益	17 (73.9%)	4 (44.4%)	13 (81.3%)	34 (70.8%)
	減益	6 (26.1%)	5 (55.6%)	3 (18.8%)	14 (29.2%)
	横ばい	0	0	0	0
	合計	23	9	16	48
50億～100億円未満	増益	14 (58.3%)	6 (75.0%)	13 (52.0%)	33 (57.9%)
	減益	10 (41.7%)	2 (25.0%)	12 (48.0%)	24 (42.1%)
	横ばい	0	0	0	0
	合計	24	8	25	57
10億～50億円未満	増益	83 (53.2%)	41 (59.4%)	42 (55.3%)	166 (55.1%)
	減益	71 (45.5%)	27 (39.1%)	32 (42.1%)	130 (43.2%)
	横ばい	2 (1.3%)	1 (1.4%)	2 (2.6%)	5 (1.7%)
	合計	156	69	76	301
1億～10億円未満	増益	184 (47.3%)	66 (54.5%)	87 (53.0%)	337 (50.0%)
	減益	191 (49.1%)	51 (42.1%)	71 (43.3%)	313 (46.4%)
	横ばい	14 (3.6%)	4 (3.3%)	6 (3.7%)	24 (3.6%)
	合計	389	121	164	674
合計	増益	300 (50.3%)	119 (56.9%)	158 (55.2%)	577 (52.9%)
	減益	280 (47.0%)	85 (40.7%)	120 (42.0%)	485 (44.5%)
	横ばい	16 (2.7%)	5 (2.4%)	8 (2.8%)	29 (2.7%)
	合計	596	209	286	1,091

4. まとめ

2015年度の出版関連業者の総売上高は、2014年度比で3.6%（1805億4300万円）減少しているものの、書店経営業者の売上高は4.8%増加していることが判明した。書店経営業者の売上高が伸びた背景には、売上高100億円以上の企業の好調な業績がある。大手書店経営業者は、店頭販売以外に電子書籍市場への参入、インターネットサービス使用やネット通販、複合店舗化による差別化を図っている。また、2015年3月に発売された『火花』や2016年1月の『天才』など文芸書からヒット作が続いたことも、各社の業績押し上げの要因になったと見られる。

依然として出版関連業者の業績は下降傾向にあることは変わらず、厳しい業界環境のなかで減少傾向は続くと思われるが、さまざまな仕掛けによって今後は改善されていくことが期待される。

【内容に関する問い合わせ先】

(株) 帝国データバンク 東京支社情報部 下川 純
TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348
e-mail jun.shimokawa@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。